Hattori 1463. Nagano : Jyōnen Hütte—Kamikōchi, on granite gravel along stream, S. H. 1358-the type of *P. virgata* var. *montana*; Mt. Senjō, 2200-2400 m. s. m. on wet greywacke, T. Amakawa 2310 & 2326; Mt. Kai-Koma, 1700-2100 m. s. m. on wet granite, T. A. 2372 & 2379; Mt. Yatsu, 2550 m. s. m. on rocks along stream near ridge-top, D. Shimizu-Type!, Aug. 12, 1952. Type in Herb. Hattori Bot. Lab.

ハットリツボミゴケ（新称）は我国の亜高山帯に本拠を置くもので，いつも水にうるおっている湿岩，あるいは流辺の砂礫に生育している。葉は円形でほぼ横につき，*Solenostoma pyriflorum* とも混同され易い外形であるが，より大形で，仮根は紅色である。油体はやや大形の 2-3 個が各細胞にあり，大いに特徴的である。なおさきに裸名で出された *P. hayachinensis* Amak. は本種の一型にすぎない。基準標本と一緒に採られた標本（清水大典氏採集）が服部博士編，日本苔類標本第 9 集に収めてある。学名及び和名は，本種を最初に（1941 年）採集された服部博士を記念した。同博士のお便りによると"常念小屋より少々下りた所。花崗岩質の砂利底になっているごく小さい渓流中にひたり（増水時は水をかぶり，乾水時は水上に出る程度），大きな黒褐色の cushion となって，同様な黒紫紅色の *Scapania undulata* などと共に点々生育し，強く印象に残っている"と。

○ミヤマチダケサシ（檜山庫三） Kōzō HIYAMA : On *Astilbe nipponica*.

一般にハナチダケサシといわれている花の白いものは本州中部のおおむね海抜 1500 m 辺から上の山原とか林間の草地に比較的よく生えているものであるが，これに有色花品があって，1958 年 7 月 18 日に武州七ツ石山の唐松谷（日原川支流）源流付近で関根好次氏が採集されたものも紫がかった濃いめのピンク色の花を持っていた。*Astilbe chinensis* Maxim. var. *formosa* Nakai は花のライラック色のものに命名されたのであるが，ハナチダケサシの正品はこの有色花品であって，信州の八ケ岳がその産地として報告されてたい。関根氏の採品もハナチダケサシの正品に当るものであるが，これは普通に見かける白花のものに比べるとずっと稀なもので，これにはミヤマチダケサシ（中井猛之進：上高地植物調査報告，1928 年）の名がある。

なお武州雲取山で見たミヤマチダケサシの中には雄芯が蕚より短いもの（すべての花が）が認められたが，これは雌雄異株的傾向のある株の存在を示すものである。

Astilbe Thunbergii (Sieb. et Zucc.) Miq. var. *formosa* (Nakai) Ohwi in Bull. Sci. Mus. Tokyo **33**: 73 (1953).

forma *formosa*—Nom. Jap. Hana-chidakesashi.

forma **nipponica** Hiyama, n. f.

Astilbe nipponica Nakai, Rep. Veg. Kamikochi 20 et 39 (1928) nom. subnud. —Nom. Jap. Miyama-chidakesashi.

Flores albi.

Hab. Hondo; Mt. Kumotori, Prov. Musashi (Hiyama—Jul. 14, 1935—type in Herb. Sci. Mus. Tokyo).